

日本全国小学校

ご当地

行事紹介

仙台市立木町通小学校



第5回
宮城県仙台市
仙台
すずめ踊り



今回紹介するのは、宮城県仙台市に伝わる「仙台すずめ踊り」です。仙台市内の多くの小学校で踊り継がれており、5月の仙台青葉まつりや運動会、地域の行事等で頻繁に踊られている踊りです。伝統を重んじ積極的に取り組んでいる、仙台市立木町通小学校に伺いました。



すずめ踊りひとロメモ
踊りの基本
● 起源は、即興の踊り
● 片足で数歩跳びながら体の前で腕を回転させるような動き

伝統を受け継いで

「仙台すずめ踊り」の歴史を教えてください。

一六〇〇年代初め、仙台城築城の際、石工たちが仙台藩主伊達政宗公の前で即興の踊りを披露したのが起源といわれています。扇子を持って踊る姿が雀に似ていることや、伊達家の家紋が「竹に雀」であることから、「すずめ踊り」と呼ばれるようになったと聞いています。



伊達家家紋「竹に雀」

踊り継がれている理由

「すずめ踊り」が、今でも踊り継がれているのは、何か秘密がありますか？

祭連（まつら）の存在が大きいと思います。仙台すずめ踊りの有志のグループで、一〇〇を超える祭連があります。それらの

メンバーが、市内の小学校に出張授業に来て、踊りを教えてくれています。

小学校での指導の実態

どのように子どもたちに指導をしているのか教えてください。

本校では、3年生と4年生合同で、運動会で披露しています。発達段階的に中学年が妥当なのではないかと考えているからです。教育上のメリットとして、学年間の交流ができることがあります。また、上級学年（4年生）は、3年生に指導するために自分の考えを表現する必要があり、それが彼らの成長を促しています。



祭連の方からの指導

練習期間はGW前あたりから始まり、実質2〜3週間しかありません。グループで合格制度を導入するなど、教員側の仕掛けによって子どもたちも燃えます。休み時間に自主練習をする光景も見られ、学級運営にもよい効果をもたらしています。こうした内面的変化は、仙台市が取り組む「自分づくり教育」にも通じています。

運動会前の
4年生の作文

五月七日（木）

「すずめおどり」

明日、三年生に、すずめおどりを教える。

私が三年生のときに、一番最初に、四年生が

すずめおどりをおどっていて、「すごい」と

思ったことを、今でもおぼえている。だから、

私も、三年生に「すごい」

と思われるように、がんばって

ばっておどりたい。

二週間後の運動会が、

とても楽しみだ。かけっ

こもがんばりたい。



すずめ踊り
ひとロメモ
の2

お囃子
●篠笛と大小の太鼓、鉦
(シヨウという銅製の打楽器)
●楽曲は全祭連共通の一曲のみ

保護者からの評判

保護者からの反応はいかがですか？

◆保護者アンケートより

●自由踊りの場面で動きも大きく、生き生きとしていました。表現力もついてきて成長を感じました。

●すずめ踊りは仙台っ子としての自覚とアイデンティティーになりますので、とてもよいと思います。

●3・4年のすずめ踊りのオリジナル振り付けが秀逸だった。ユーモラスでユニークな元氣いっぱいの振り付けが大うけでした。

●すずめ踊りは元氣いっぱいの演技で、色の調和もよく、子どもたちは真剣な表情で声も大きく、大満足でした。



「すずめ踊り」に期待するひと

仙台市立木町通小学校
前教務主任 熊谷英之先生

伝統あるこの踊りで、地域との交流の輪ができればすてきなと思います。仙台市中心部なので難しいとは思いますが、どこかの集会所などで、子どもたちが地域の方たちから踊りを教わり、見守られながら育ててくれたらと思います。古きよき時代の日本の風景の中には、そのような教育的にすばらしいものがたくさんあったと感じています。

我々教員としても、そのような人ととのつながりを大切にする働きかけを、地域と保護者へおこなっていかねければならないなと感じています。